

# サブサハラでの情報通信事業

## —3つの転機と4つのキーワード

日本電気株 欧州・中近東・アフリカ本部  
(前 NEC アフリカ社 社長)

エグゼクティブ・エキスパート 吉川理裕

筆者は1980年に日本電気株(NEC)に入社して以来、ほぼ一貫して中東、アフリカ地域のビジネスに携わり、83年のイラク・バグダッドへの駐在を手始めに、以後UAEに1回、南アフリカに2回の駐在を経験した。

サハラ砂漠以南のサブサハラ48カ国における当社の事業は、60年代にエチオピア向けに伝送通信機器を納入したことが皮切りとなった。以後、特にケニアを中心とする東アフリカ諸国、ナイジェリアを中心とする西アフリカ諸国向けのODAによる通信システムと、放送関係システムの納入を中心に、90年代まで各国通信公社、放送公社向けの衛星地上局や無線、伝送、交換通信機器の納入ビジネスを続けてきた。

### 大きな転機をもたらした携帯電話 —指紋認証、ITセキュリティ分野への進出

最初の大きな転機は、90年代に携帯電話事業がサブサハラ諸国においても始まったことにある。もともとインフラ整備が遅れていたこの地域では、各国通信公社による電話普及率も非常に低く、統計では2000年時点で平均5%(日本での普及率は50%超)、情報通信分野全体の発展において大きな課題となっていた。ところが、携帯電話事業が始まった途端に固定網通信(通常の固定電話)の普及をはるかに上回る爆発的な携帯電話網の普及が始まった。同時平行して、通信技術の大きな転換期である通信のIP化により、従前のレガシーと呼ばれる局用交換機などが一斉に入れ替

えの時期を迎えた。もともと固定電話の普及率をはじめとする通信網の整備が未熟な地域が多かったこのエリアでは、他地域に比べてむしろ劇的に通信ネットワーク網の整備と改革が進んだ感があった。

サブサハラ諸国は「電気通信システム域内に居住する人口の割合」が99年の5%から06年には57%に増加し(JETRO統計)、携帯電話保有者数はすでに1億人を越え2億人に届かんとする勢いで増加を続けている。いかに急速な普及と市場の変貌があったかがよく分かる。携帯電話の普及による通信事情の改善は、サブサハラ地域において、情報通信分野全般のインフラ促進にもつながった。

南アフリカ共和国が90年に人種差別を撤廃し、94年の故マンデラ大統領就任により国際社会への復帰を果たしたことは、この地域のGDP総額の32.7%を占める巨大経済市場の誕生でもあり(10年現在のJETRO統計)、非常に大きな出来事であった。

それは情報通信分野にも大きな影響を与え、南アフリカ主体の大手携帯電話事業者(MTN他)がサブサハラ地域へ投資・進出したことが、市場拡大と通信網の普及につながっていった。ちなみに、MTNは11年現在、サブサハラ15カ国で事業展開し、1億6000万回線のユーザーを保有している。一方、当社をはじめとする日本企業は携帯電話方式が欧州方式(GSM方式)であったため、携帯電話事業のコア部分には参画できなかった。